



演奏前の舞台設営 フレンズスタッフもお手伝いしました

☆ 尺八の遠くまで響く音に琴が追いかけてゆく感じが心地良く、幻想的でした。普段、聞く機会もないので、こういう演奏会もいいなと思いました。

長久手市 女性

☆ ひとりで吹く尺八の音が、大勢の琴の音に負けないボリュームなのでびっくりしました。尺八が一番印象に残りました。

長久手市 女性

☆ 親子で鑑賞しました。「パッヘルベルのカノン」が良かった。

多治見市 女性

☆ 「夏月」が良かった。習っているお琴の教室では水野先生の曲が多いです。

多治見市 10代女性



動のほか、都山(とさん)流の指導者として東京芸術大学や愛知県立芸術大学にて後進の指導に当たられています。尺八は江戸時代から明治維新ころまで虚無僧が吹くもので、宗教にかかわるとして明治4年、当時の政府により禁止された時代もありました。その後宗教色をなくし楽器として演奏されるようになり普及、野村さんの都山流などいくつかの流派が生まれたそうです。

尺八奏者 野村峰山さんにインタビュ

フレンズとは 懐かしいご縁も

コンサートの特別ゲストとして出演される尺八奏者の野村峰山さんに、リハーサルの間をぬってお話を伺いました。野村さんは16年前の第1回フレンズのつどい「新春箏曲の調べ」に出演していただき、当時フレンズスタッフとして尽力され現在お琴の先生をされている伊佐治美和子さんも同席され、お二人にとっては久しぶりの再会の場となりました。



おだやかに語られる 野村峰山さん

当時を振り返った思い出話のなかで、初めて文化の家で演奏された時の感想を伺うと、「ホールの木の内くもりや演奏したときの音が温かく感じられたことが強く印象に残っています」とのことでした。

現在、野村さんは全国各地での演奏活

造まで分かりやすく丁寧なお話を伺いました。また楽譜はたて譜ですが、作曲の時は五線譜を使い、アンサンブルで大切な和音など曲作りは作曲ソフトを利用され「他の楽器とのコラボ、アレンジの苦労はあまりありません。これからは斬新な演奏を楽しみたいと思います」と話され

インタビュを終えました。お忙しいなか、ありがとうございました。

【編集者後記】

尺八の音色は「竹林を渡る風の音」のイメージといわれ、箏との共演で現代風にアレンジされた曲でも、洋楽にはない懐かしさが心にこみ上げる響きで邦楽の醍醐味を感じました。

フレンズ企画 Part. 34のお知らせ

デュエットの世界によろこそ ～ お茶と楽しいおしゃべりを～

出演 毛利和雄(テノール)・毛利美奈子(ソプラノ)・加藤華奈子(ピアノ)

場所 長久手市文化の家 舞踊室

日時 12月12日(土) 開場13:30 開演14:00

入場料(全席自由) ● フレンズ会員 1,200円(会員本人のみ)

● 一般 1,500円

チケット発売日 フレンズ会員 10月3日(土) 一般 10月10日(土)

※ 未就学児の入場はご遠慮下さい。

プログラム オペラ「椿姫」より 乾杯の歌

ミュージカル「ウエストサイド物語」より トウナイト ほか

※ 従来の「フレンズのつどい」の名称を「フレンズ企画」に変更します。